

セコムグループ2030年ビジョン



セコムは、2017年5月、「社会システム産業」の構築をめざし邁進する中で、2030年をひとつのターゲットとしてセコムの方向性をより明確に示した「セコムグループ2030年ビジョン」を公表しました。さらに2018年5月、2030年のめざす姿に到達するため、セコムが今何をすべきかを考えて、「セコムグループ ロードマップ2022」を策定しました。

「あんしんプラットフォーム」構想

セコムは、「セコムグループ2030年ビジョン」のもとに、“いつでも・どこでも・誰にとっても・切れ目のない安心”を提供する「あんしんプラットフォーム」構想の実現をめざしています。

「あんしんプラットフォーム」とは、これまでセコムが培ってきた社会とのつながりをベースに、セコムと想いを共にする産・官・学などのパートナーが参加して、さまざまな技術や知識を持ち寄り、セコムとともに暮らしや社会に安心を提供する社会インフラのことで。

企業活動や個人の生活でも、事件や事故など“想定外の事態”が起きると、日常の流れが止まり、生産性が大幅に低下します。さらに、その被害が大きいほど、復旧するまでの時間が長くなります。「事件・事故」「サイバー犯罪」「自然災害」「病気・老化」といったさまざまなリスクに対して、平時は「事前の備え」を怠らず、有事には「事態の把握」と「被害の最小化」に努め、「事後の復旧」を迅速に行えば、安心して生活することができます。セコムは、この4つの要素を「セコムあんしんフロー」と

定め、あらゆるリスクに対して“切れ目のない安心”を提供できるように、サービスやシステムを進化させています。

「あんしんプラットフォーム」構想の実現に向けた戦略

「あんしんプラットフォーム」構想を実現するため、セコムグループの総力を結集して相乗効果を生み出す“ALL SECOM”戦略と、セコムと想いを共にするパートナーが参画する“共想”戦略を、積極的に推進しています。

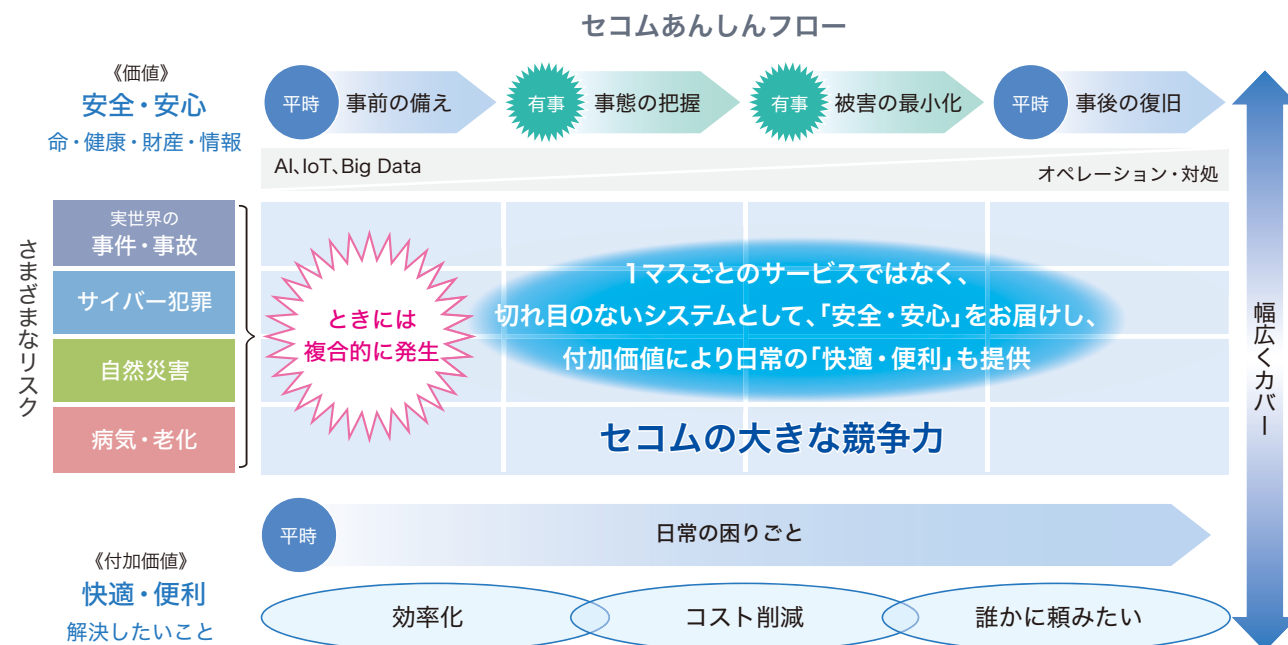
また、社会やお客様とのつながりを強化するため、最新情報技術を活用したビッグデータ分析によりお客様の潜在ニーズに応えてつながりを増やしていく“コネクテッド”戦略や、日常のお困りごとに対するニーズ

に対して安心を提供するサービスの付加価値として快適・便利なサービスを提供する“価値拡大”戦略を展開しています。

セコムは、この4つの戦略のもと、お客様の多様な「安全・安心」ニーズに応えるサービスやシステムを創出しています。



「あんしんプラットフォーム」構想で実現をめざすサービス概念図



「セコムグループ ロードマップ2022」を策定

2018年5月には、2030年のめざす姿に到達するために、今何をすべきかを明確にして、何を必要としているかをバックキャストिंग*の思考で明らかにした、「セコムグループ ロードマップ2022」を策定しました。

セコムは、変化の激しい社会において、「テクノロジーの進化」と「労働力人口の減少」への対応を、優先して取り組むべき課題と位置づけています。これらの課題は、企業や社会にとって適切に対処しなければ脅威になりうるものであり、その解決策

を求めるニーズをセコムが先取りし、ビジネスチャンスにつなげ、社会の生産性向上に寄与していきます。

*バックキャストिंग・・・未来の目標時点から振り返って、現在するべきことを考える方法。

持続的成長をめざして

セコムは、社会と企業の持続的成長を重視しており、そのための支出はコストではなく、長期的なビジネスの環境変化を事業に組み込んでいくための投資であると考えています。創業以来、セコムが新たな価値を創造するサービスイノベーションに

挑み続けているのは、提供できるものを売るという発想ではなく、社会が持続的成長をするために必要なものは何かという、一歩先を見据えた発想でサービスを創出していききたいという強い想いがあるからです。そのために最も大切にしているのが、

人と技術です。セコムは、これら無形資産とそれを活用する能力を絶えず高める努力を続けることで、競争優位を確立し、社会とお客様の信頼を得て、持続的成長を続けていきます。

人への投資では、テクノロジーでは代替できない変化適応力や価値創造力に優れ、社会貢献意欲の高い人財確保といった人的資本の増強を進めています。具体的には、IT分野やグローバルビジネスなどに必要な高度な専門知識と経験を有する人財の採用・育成を強化し、組織においては

働きやすい環境づくりの促進はもとより、働きがいが高めるための各種研修の充実といった、社員の自己実現を支援するための投資を行っています。

また、投資・躍進フェーズを通じて自己資本を活用した総額2,000億円のM&A枠を設けています。投資対象は、国内外

を問わず、フィジカルおよびサイバーセキュリティ、BPO・ICT、ヘルスケアの各分野に加え、技術力の高いベンチャー企業として

「つながる社会のセキュリティ」需要と「誰かに頼みたい」需要に対応

「テクノロジーの進化」に伴い、さまざまなものがインターネットにつながりはじめ、コネクテッドカーの実用化、ドローンやロボットの利用拡大、無人店舗やキャッシュレス社会の到来、スマートロックやAIスピーカーを装備したスマートホームの普及など、フィジカルとサイバーを融合させた「つながる社会のセキュリティ」需要が、さらに高まると考えています。

また、「労働力人口の減少」に伴い、企業では、自社の競争力の源泉である中核事業以外の非中核業務を外部に委託するニーズが高まり、ご家庭では少子高齢化や共働き家庭の増加などにより、高齢者や子どもの見守りニーズが高まっています。セコムは、このような「誰かに頼みたい」需要に対して、セコムならではの「安全・安心・快適・便利」なサービスを提供するこ

とで、社会課題の解決に貢献したいと考えています。

「セコムグループ ロードマップ2022」における成長投資

セコムでは、2019年3月期から2020年3月期までの2年間を将来に向けて経営基盤を強化するための投資フェーズ、その後2023年3月期までの3年間を躍進フェーズと位置付けています。

投資フェーズでは、システム投資と人への投資を重点的に行っています。システム投資では、省人化や人の力の増幅によるサービス品質と生産性の向上を図るため、次世代基幹システムの構築や機能改善のための投資を進めています。また、AI/

IoT、RPAといった業務の品質向上・効率化に役立つ分野への投資や、「テクノロジーの進化」と「労働力人口の減少」に対応する新サービスや新商品の研究・開発に対して、積極的に資金投入しています。

セコムグループ ロードマップ2022

ご参考までに、日本会計基準による2023年3月期の業績目標を以下に記載します。

連結売上高 **1.1** 兆円 連結営業利益 **1,550** 億円 ROE **8%** 超 配当性向 **40%** 台前半を目安

